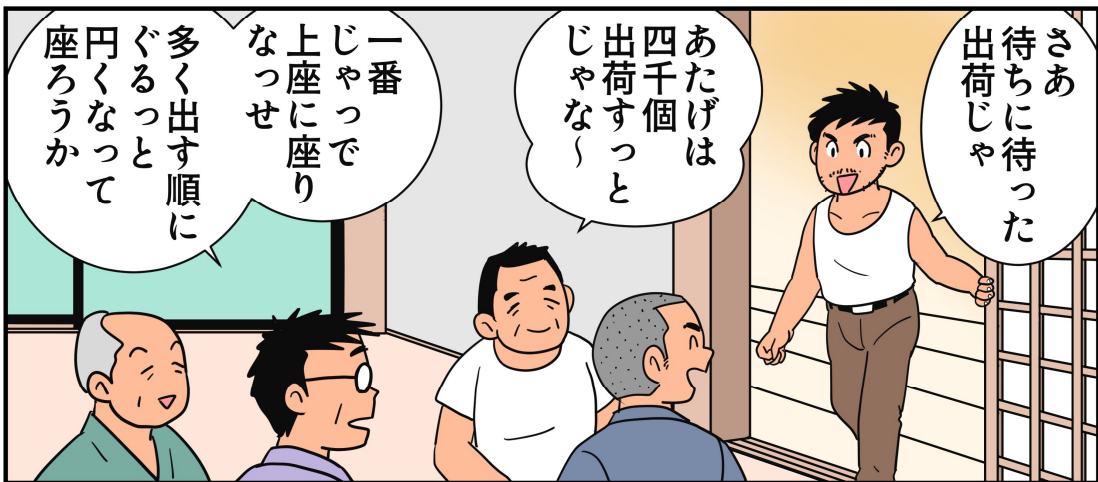
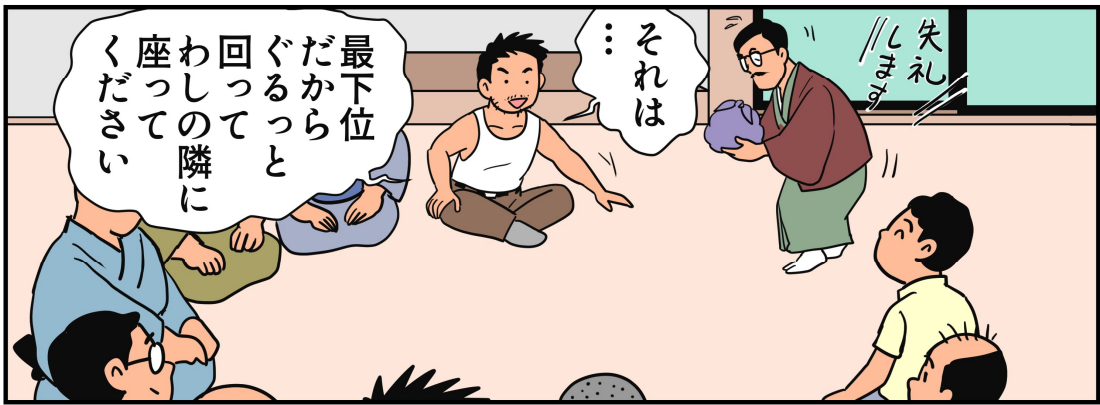
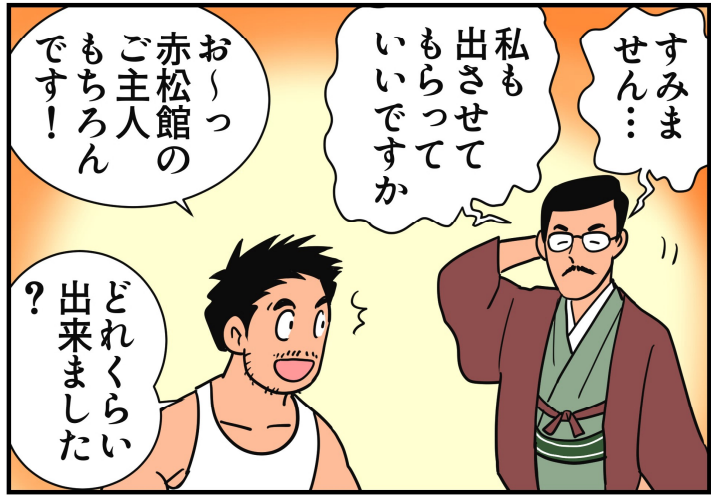
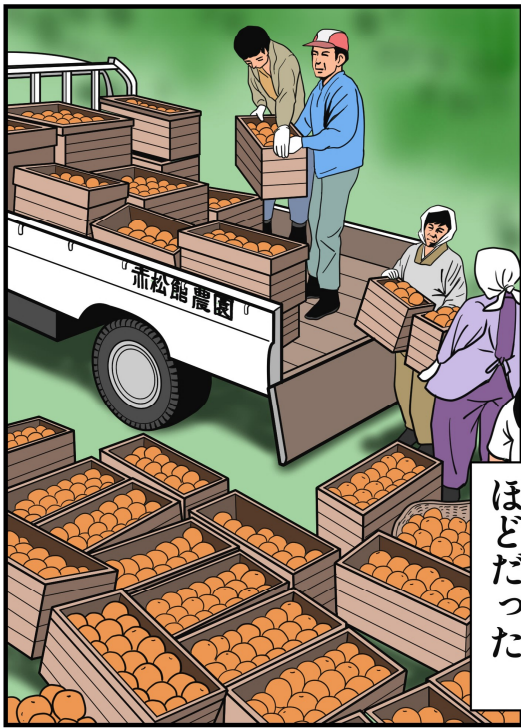


第五章 躍進



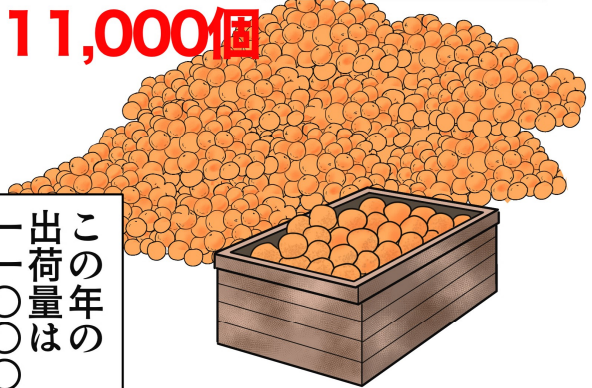




選果量は現在のよう
に重さで計る
のではなく
個数を単位と
していた

11,000個

この年の
出荷量は
一〇〇〇〇個
ほどだった



昭和34年

ほう!

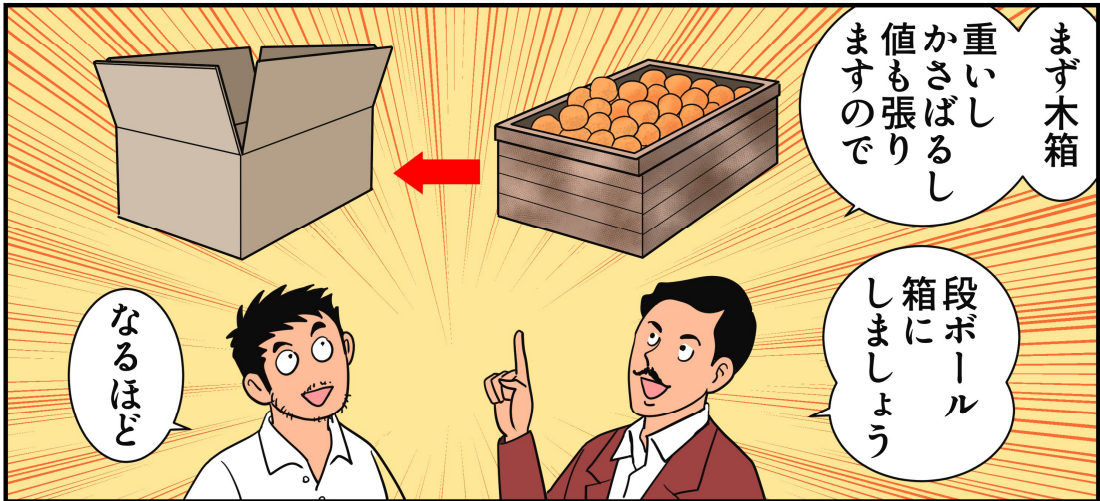
これは
美味しい!

東京の
東印(のちの東一)
の社長と
千足屋の社長が
熊本に視察に
訪れた際
田浦の甘夏に
目を留めた

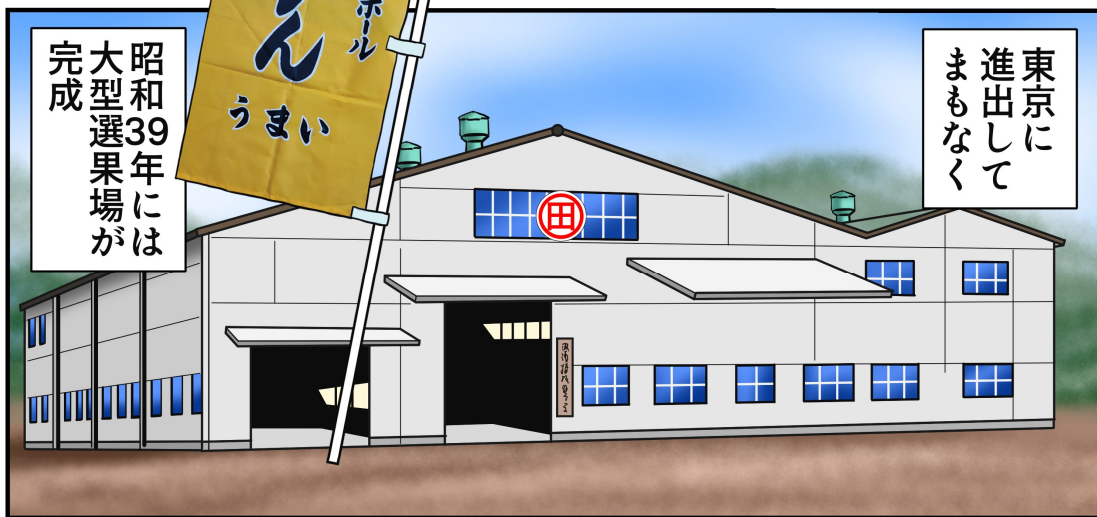


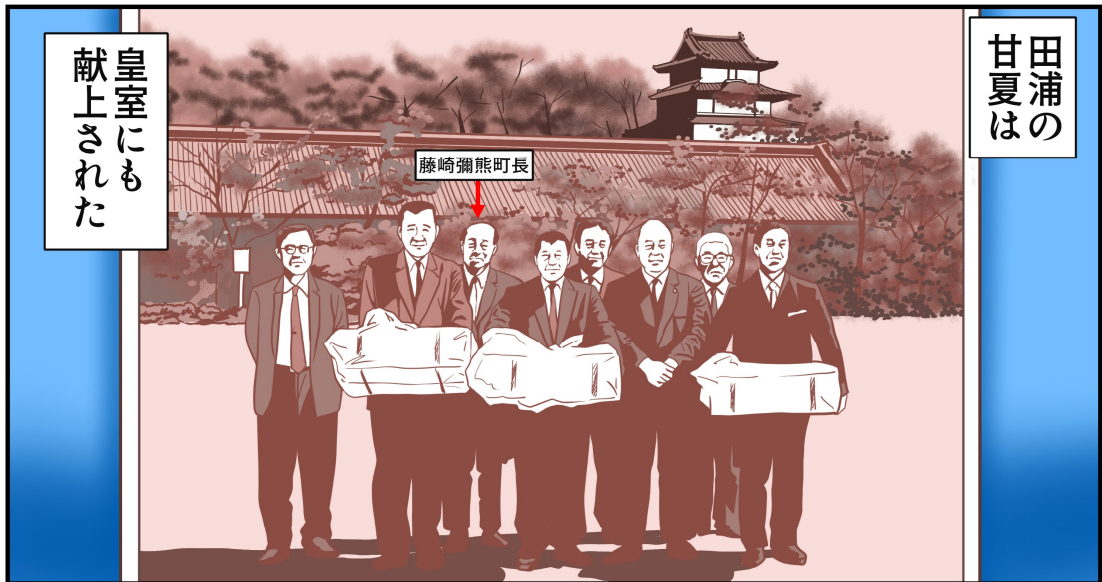
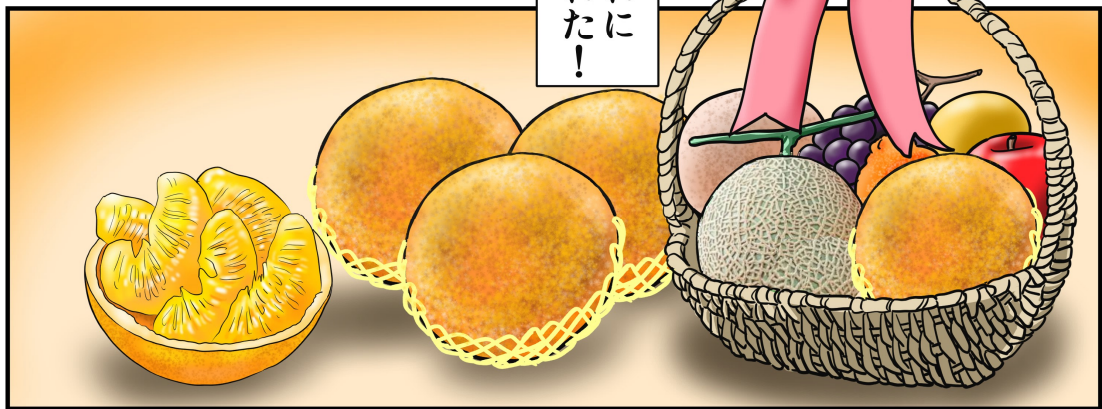
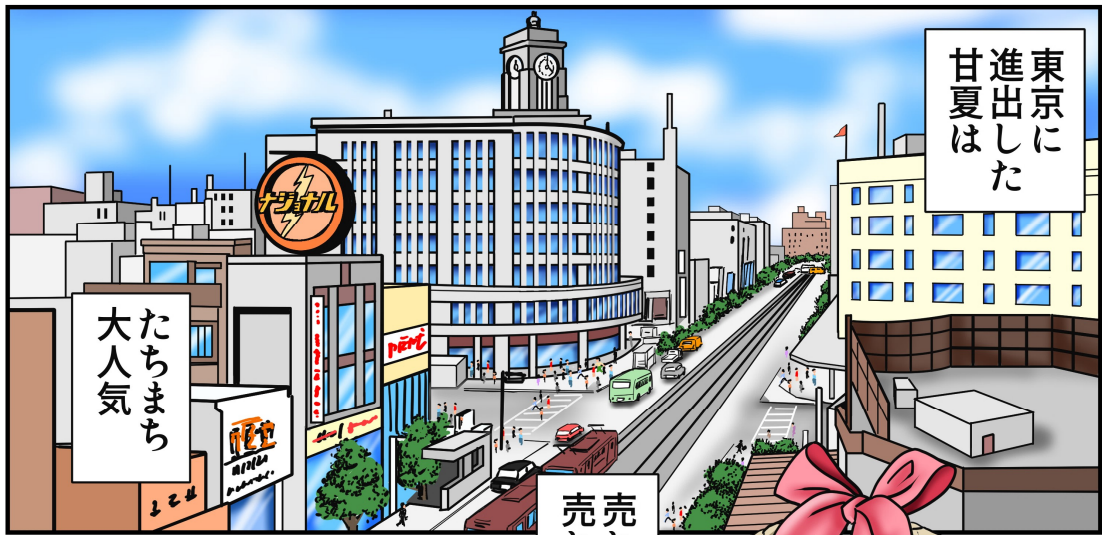
ぜひ
この甘夏を
東京にも
出してくれ

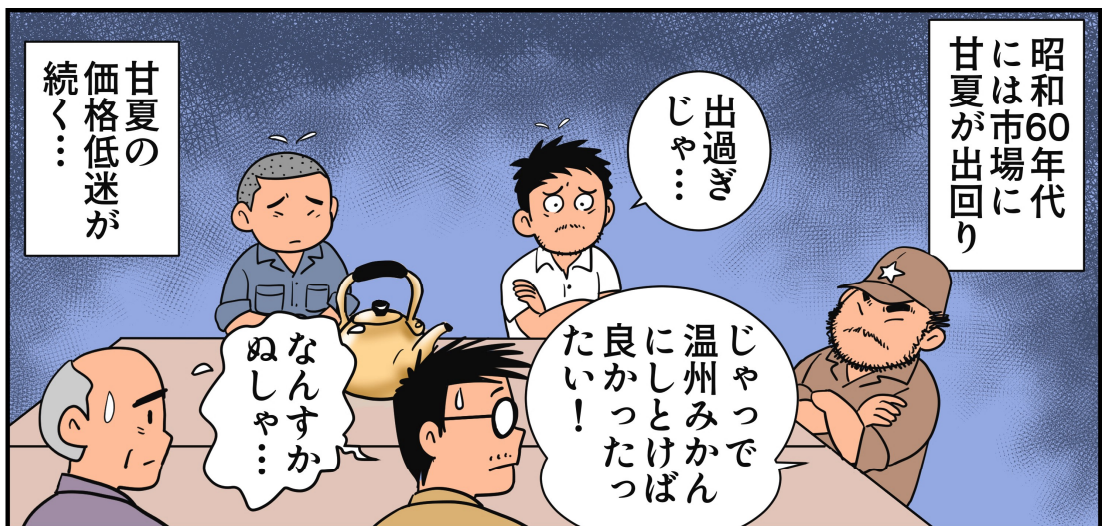
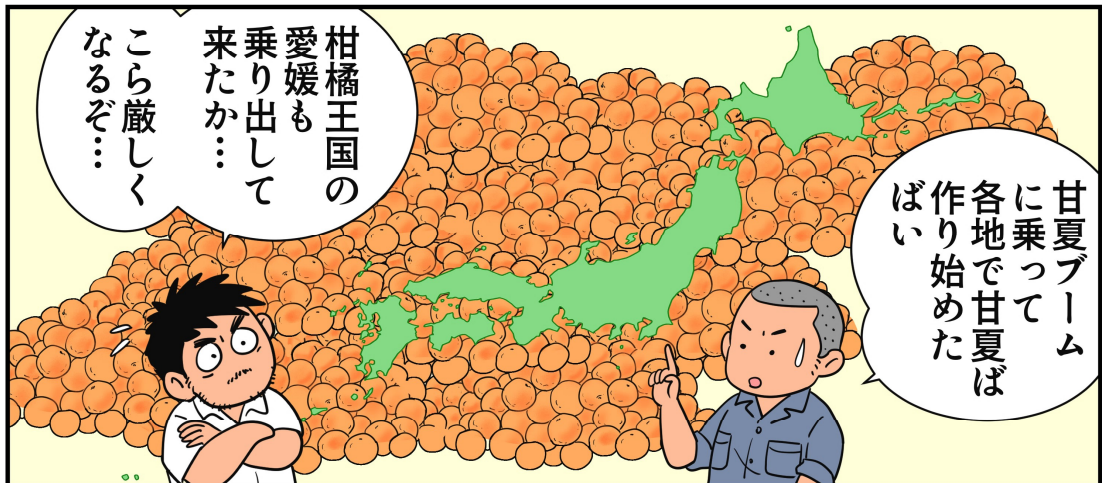
はいっ!
喜んで





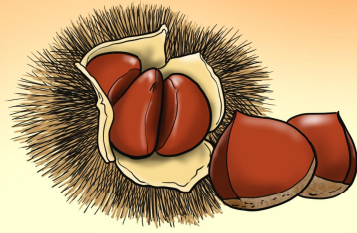






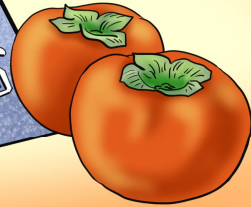
昭和63年

あまりの生産量の多さと、オレンジの輸入自由化に伴い



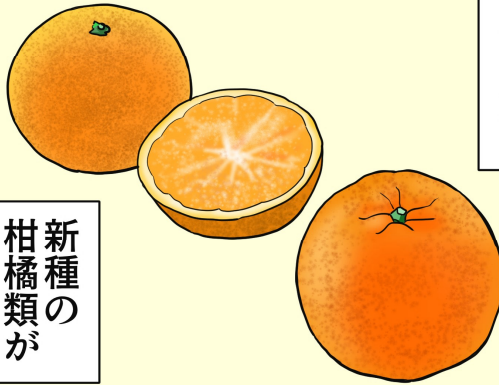
農林水産省

柑橘類を制限して栗や柿を植えるようお達しがあつた



さらに平成になると

清見不知火と



新種の柑橘類が出てきた

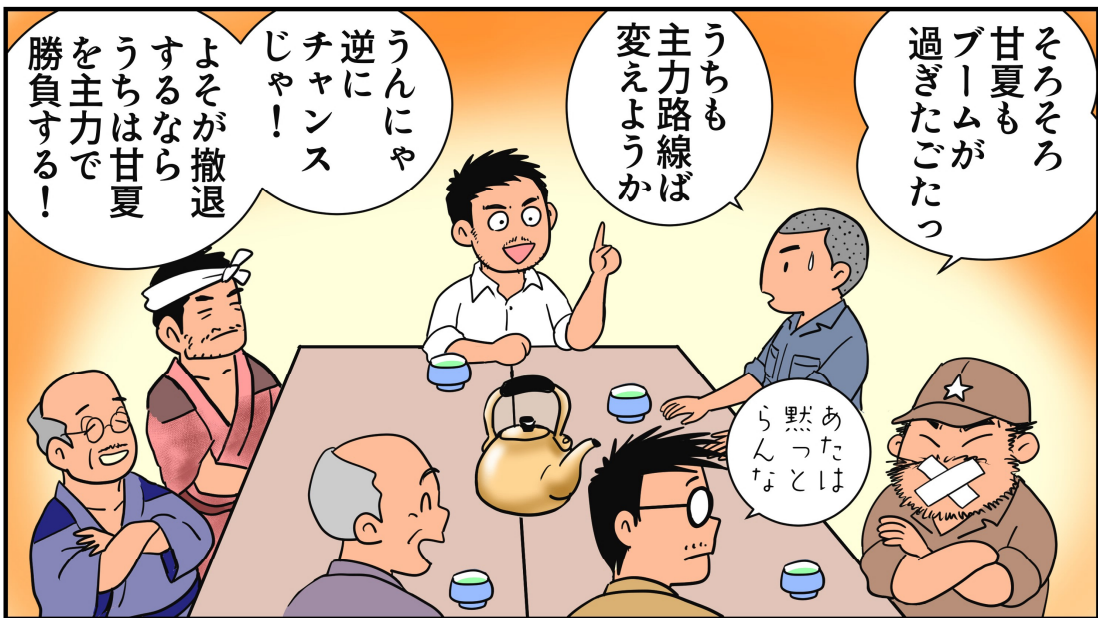
そろそろ甘夏もブームが過ぎたごたつ

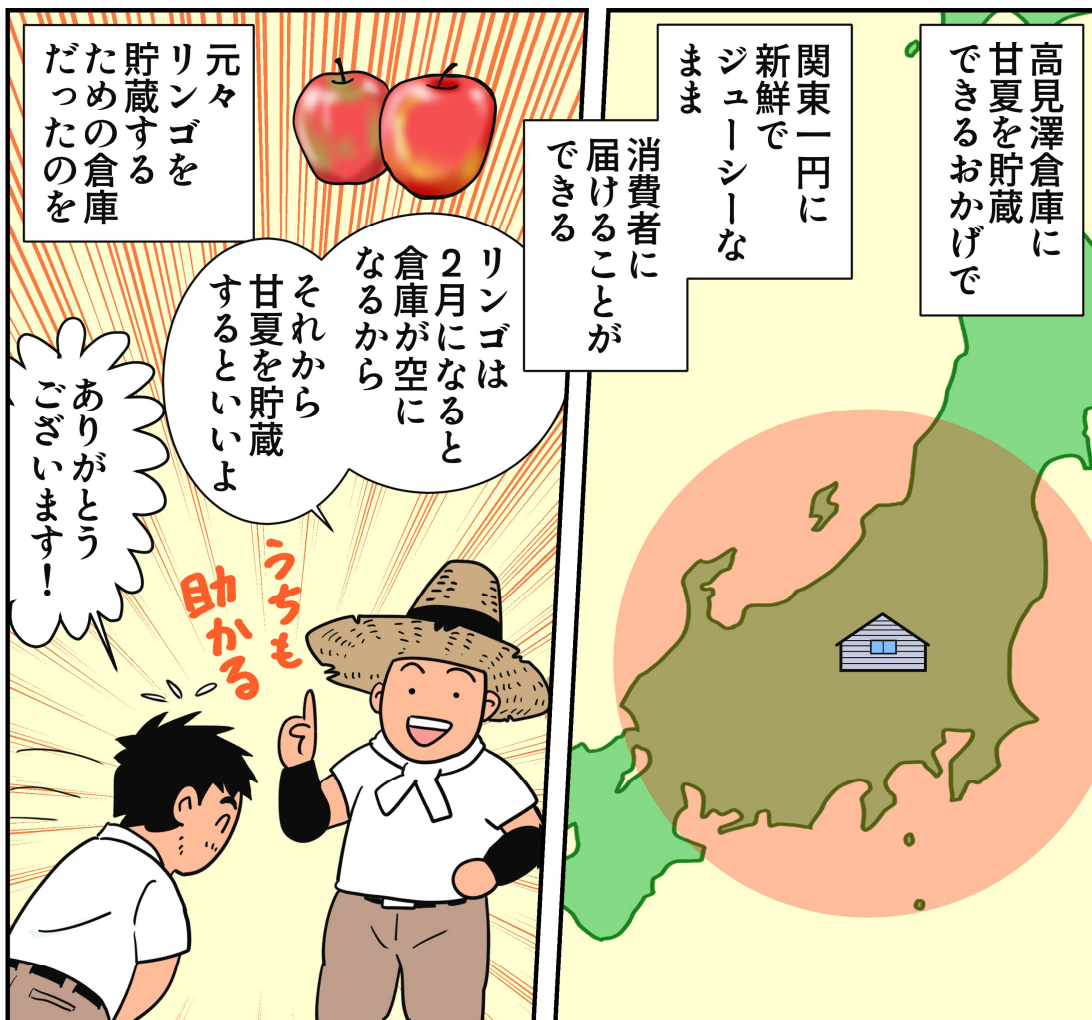
うちも主力路線ば変えようか

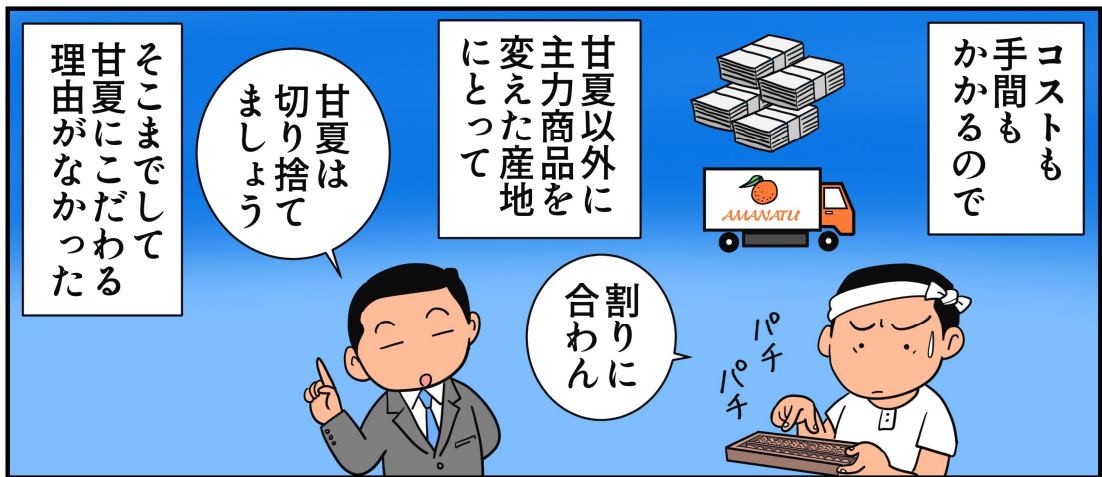
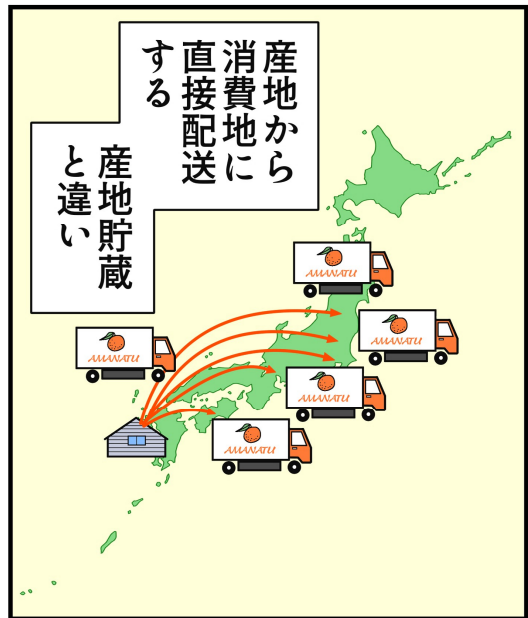
うんにゃ逆にチャンスじゃ!

よそが撤退するならうちは甘夏を主力で勝負する!

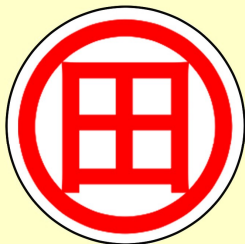
あんなは黙らんとは



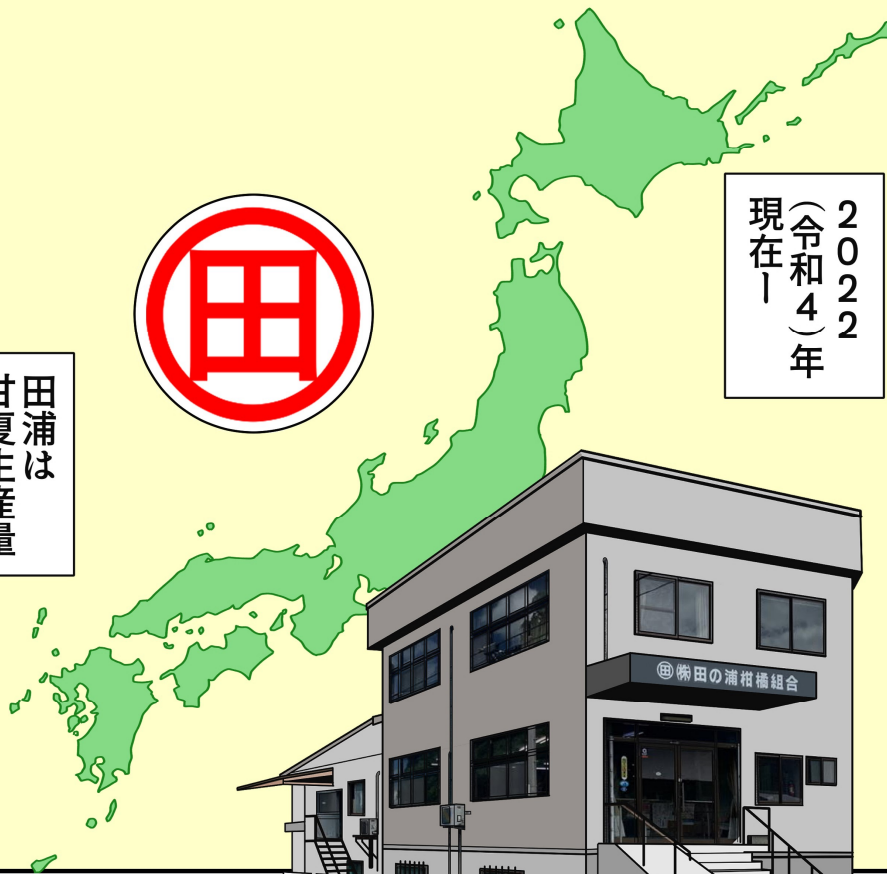




2022
(令和4)年
現在！



田浦は
甘夏生産量
日本一を
誇る



今や
缶詰や
ジュース
などの
贈答品を
はじめ



たまごまな
商品を出して
消費者に
喜ばれている





田浦の甘夏が
美味しいのは
作る人たちの
思いがいろいろ
詰まっている
からなのね

甘夏だけじゃ
ないわ
私たちが
普段食べて
いる物の
ほとんどが

見えない
苦労を
してくれた
人たちの
おかげで

私たちは
豊かな食生活を
送ることが
出来るのよ



今も田浦の
柑橘農家は

最新の
栽培法や
工夫を重ね
新しい品種を
作り続けて
います

世界に誇る
🍊ブランドを
守るために